

青梅市文化財ニュース

第408号

令和3年10月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

多摩（青梅）七福神について

青梅には、七福神をめぐるコースができています。

そもそも七福神とはどういうものなのでしょうか？

百科事典を見ると、「福德をもたらす神として信仰されている七人の神」とあります。「七人の神」とは、インド、中国、日本に伝わる信仰対象を組み合わせて、竹林七賢（中国、三国魏（220～265年）の末期、河南省北東部一帯の竹林でしばしば集まって清談を行った七人の賢人のこと。）にならって、室町時代に「七」に整えられ、福の神としたとあります。

七福神めぐりは、七福神のお寺を正月松の内に参拝して、その年の開運を祈ることです。

恵比寿（日本）、布袋、福祿寿、寿老人（以上中国）、大黒天、毘沙門天、弁財天（以上インド）の七神を指します。

七福神めぐりのコースによっては、寿老人か福祿寿のどちらか一つにして、吉祥天を入れるところもあるそうです。また、八福神にしている所も何か所かあるそうです。

多くの寺院が吉祥天を入れないのは、女神が二つになり争いのもとになるということで、紅一点の女神にすることが多いそうです。

多摩青梅七福神めぐりがどういう形で始まったのでしょうか？

昭和50年前後に、各地で七福神めぐりが盛んに行われ始めました。延命寺住職大久保芳木氏の話によると、各地の七福神めぐりに参加していた町内の方が、前住職大久保有邦氏のもとに相談に来られて、良い話だということで、何処をめぐるか、他の寺院の方と相談したりして、現在のコースに落ち着いたそうです。

昭和52、3年頃の話で、スタートしたのは昭和55（1980）年元日だそうです。

多摩地域で青梅七福神めぐりが最初に始まり、名前は青梅の前に多摩を付け多摩（青梅）七福神になったそうです。その後、（ ）は取れました。

多摩地区で最初の七福神ということで、はとバスがコースめぐりを始め、大盛況だったそうです。

その後、多摩地域で盛んに七福神めぐりのコースが作られたそうです。

多摩青梅七福神の所在について

- 1 寿老人は、聞修院（曹洞宗・黒沢）の山門をくぐった左側の寿老堂に祀られています。
- 2 福祿寿は、明白院（曹洞宗・日向和田）の本堂正面左のお堂に祀られています。
- 3 布袋尊は、地藏院（臨済宗・畑中）の本堂右側のお堂に祀られています。
- 4 恵比寿尊は、清宝院（真言宗・青梅大柳）の本堂左側に祀られています。また、清宝院には恵比寿尊の左側に、安政2（1855）年卯年5月28日に大柳村組中奉納の毘沙門天（石像）が祀られています。
- 5 大黒天（明治時代作）は、延命寺（臨済宗・青梅住江町）の本堂に祀られています。七福神めぐりが始まる以前は、庫裡に安置されていました。
- 6 毘沙門天は、宗建寺（臨済宗・千ヶ瀬町）の本堂の中に外から参拝できるように、祀られています。
- 7 弁財天は、玉泉寺（臨済宗・長淵）境内の古い湧水湖畔に祀られています。

七福神について

- 1 寿老人は、人々の安全と健康を守る長寿の神様です。
- 2 福祿寿は、幸福（福）、財産（祿）、長寿（寿）という道教の三つの名前を徳にもち、人々にご利益を授ける神として信仰されています。
- 3 布袋尊は、唯一実在した中国の禅僧 釈契此しゃくかいしといわれ、布袋和尚と呼ばれていたそうです。招福・開運・諸願成就をもたらす福の神です。
- 4 恵比寿尊は、唯一日本固有の神です。大漁豊作・商売繁盛・開運出世のご利益があります。
- 5 大黒天は、一般的には五穀豊穰・開運福寿の神とされていますが、ほとんどの寺院では、庫裡及び台所の守り神とされています。
- 6 毘沙門天は、知恵と勇気を授け、大願成就・財運などを司る神とされ、戦勝を祈願する武士階級の信仰を集め、勝負ごとの神として民衆にも人気がありました。
- 7 弁財天は、学問・芸術の女神とされ、財福の福神とされることが多いです。

七福神をめぐるには、いろいろな寺院から出発できます。ご自分のまわり方を考えるのも良いのではないかと思います。自分なりに思い思いのコースを見つけて、楽しんでいただければと思います。

<お話を伺った方>

大久保 芳木氏

<参考文献>

『世界大百科事典』 平凡社 1968年

『関東七福神ハイキング』 講談社 2020年

（文責 東山啓子）